

## 六、稲取地区

### (一) 稲取灯台<sup>いなとりとうだい</sup>

町文化財 昭和五十七年九月指定

稲取のトモ岬<sup>みさき</sup>の沖<sup>おき</sup>は、船の事故が起こりやすい場所で、漁民から大変おそれられていました。

明治<sup>めいじ</sup>二十五年（一八九二年）に稲取の漁民の代表である鈴木常右エ門<sup>つねう えもん</sup>らは、トモ岬に灯台を建てることを計画しました。何度か国などに灯台を建てるお願いをしました。が、計画は受け入れてもらえませんでした。そこで、自分達で灯台を建てることを決めました。

みななどお金を出し合い、石運びなど村人が協力をして、明治四十二年（一九〇九年）十二月に灯台が完成しました。灯台の建設には、当時のお金で八〇五円がかかったと伝えられています。灯台ができたことにより、灯台からの灯は漁船のよい目印となり、事故を

起こす船が少なくなりました。

しかし、太平洋戦争<sup>たいへいようせんそう</sup>中であつた昭和十七年（一九四二年）に敵の攻撃の目印になるとして、灯台の灯は消されました。戦争が終わってもこの灯台は使われることがなく、荒れてしまいました。しかし、その後、町は村人の協力によりこの灯台が建てられた価値を認め、文化財に指定し、昭和六十年（一九八五年）に灯台が復元されました。

